



向坊 太郎 先生

#### 略歴

- 2007年 3 月 鹿児島大学歯学部卒業
- 2012年 3 月 九州歯科大学大学院修了（口腔再建リハビリテーション学分野）  
博士（歯学）
- 2012年 4 月 九州歯科大学口腔再建リハビリテーション学分野 助教
- 2015年 9 月 National Institute of Health Clinical Fellow
- 2018年 4 月 九州歯科大学口腔再建リハビリテーション学分野 助教
- 2019年 4 月 九州歯科大学口腔再建リハビリテーション学分野 病院講師

## インプラント治療における電動清掃器具の有効性

九州歯科大学口腔再建リハビリテーション学分野  
向坊 太郎

インプラント治療の長期安定や生物学的な合併症の予防には口腔清掃が重要であるが、インプラント上部構造に付着したプラークの除去に電動歯ブラシの使用が適切であるかについてはエビデンスが不足しているのが現状である。一方でインプラント支持固定性補綴装置の長期予後については近年良好な結果が得られており、複数歯連続欠損症例においては必ずしも欠損1歯に対して1本のインプラントの埋入を行わず、ブリッジ形態の上部構造を採用するケースも多くなっている。特に無歯顎患者に適応される4本から6本のインプラントを使用したインプラント支持固定性補綴装置においては、構造上インプラント間の上部構造は長いポンティックとなり、その基底面にプラークが付着しやすい場合もある。今後インプラントの長期予後考えた場合、ホームケアにおいて最適な清掃方法の検討が必要であると考えられた。これまで上顎のインプラント支持固定性補綴装置の基底面においてプラーク付着がどの部位に起きやすいかについての報告はなされてきたが、そのプラーク除去にどのような清掃方法が適しているのかの検討は行われてこなかった。そこで我々は電動歯ブラシが上顎無歯顎患者のインプラント支持固定性補綴装置基底面において手用歯ブラシと比較して電動歯ブラシがどの程度有効であるかを検証することを目的として研究を行なった。

被験者は上顎無歯顎の患者で、手用歯ブラシと、電動歯ブラシ2種、および電動デンタルフロスのプラーク除去効率をクロスオーバー比較試験の手法を用いて調査した。さらに基底面を頬側と舌側、手用歯ブラシの清掃技能が良好な群と不良な群とで電動歯ブラシのプラーク除去効率を比較し、興味深い結果を得ることができた。

本ランチョンセミナーにおいてはこれらの結果をご紹介しますとともに、インプラント支持固定性補綴装置における電動歯ブラシの使用法の注意点や、インプラント治療を行なった患者に対して家庭における電動歯ブラシの使用説明をどう行うのかなど、今後の課題についても考察したい。